

令和 5 年 6 月 6 日現在

機関番号：62501

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18H03592

研究課題名（和文）琉球帝国からみた東アジア海域世界の流動的様態と国家

研究課題名（英文）Fluid aspects and states of the East Asian maritime world from the perspective of the Ryukyu Empire

研究代表者

村木 二郎（Muraki, Jiro）

国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・准教授

研究者番号：50321542

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 33,500,000円

研究成果の概要（和文）：先島や奄美の集落を考古学的に調査することで、従来の解釈に修正をせまる。そのため、遺物面では集落遺跡から出土した中国産陶磁器を悉皆的に分類・カウントすることで基礎資料の充実を図った。遺跡面では先島に残る石積みをもった集落遺跡を丹念に踏査し、測量調査を実施して資料を蓄積した。これらの調査から、13世紀後半から14世紀前半に先島の集落が成立し、中国福建省から直接陶磁器を入手する沖縄島とは異なる文化圏であったことがわかった。また宮古島では14世紀後半から15世紀初め、奄美では15世紀前半から中葉、八重山では15世紀後半から16世紀前半に集落遺跡が消滅し、この時期に琉球の侵攻を受けたと想定した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

文献資料が少ないため、先島や奄美の歴史は近世に首里王府が編纂した史料によって語られてきた。それは征服した側の勝者の論理による歴史である。本研究では資料的限界を克服すべく、先島や奄美に残された集落遺跡とその出土遺物から考古学的資料を蓄積して従来の解釈に修正を迫った。そこから見えてきた琉球の帝國的側面は、古琉球史のみならず東アジア海域史に対する問題提起ともなる。また、独立した文化圏であった先島が琉球の版図になったことの意味は、現在の沖縄県域の多様性を改めて考える素材となる。琉球の論理だけでなく、先島の論理にも目を向けることで、他者理解へのきっかけとなれば歴史学の社会的意義はより深まる。

研究成果の概要（英文）：Through archaeological surveys of settlements on Sakishima and Amami, we seek to revise conventional interpretations. For this reason, the basic materials were enriched by classifying and counting all the Chinese ceramics excavated from the ruins of the village. We carefully explored the ruins of a village with stone masonry remaining on Sakishima. From these investigations, it was found that settlements on Sakishima were established between the late 13th century and the early 14th century, and that it was a different cultural area from Okinawa Island, where ceramics were obtained directly from Fujian Province in China. In addition, it is assumed that settlement ruins disappeared from the late 14th century to the early 15th century on Miyakojima, from the early 15th century to the middle of the 15th century on Amami, and from the late 15th century to the early 16th century on Yaeyama, and that they were invaded by Ryukyu Kingdom during this period.

研究分野：日本中世考古学

キーワード：琉球 集落 陶磁器 八重山 宮古 奄美 先島 中世

1. 研究開始当初の背景

14～16世紀の東アジア海域世界では、世界史でいう大航海時代を前に、すでに活発な交易がおこなわれていた。その立役者は琉球王国である。大明帝国は海禁政策を建前としたために自由な貿易ができず、冊封体制下にある琉球王国に貿易公使としての役割を担わせた(岡本弘道『琉球王国海上交渉史研究』2010年)。これを逆手に、琉球は明と東南アジア諸国、朝鮮、そして日本をつなぐパイプ役として積極的な交易活動を展開し、「大交易時代」を現出したのである。

従来、琉球王国は明の冊封体制のなかで中継貿易国家として存立したが、ヨーロッパ勢力のアジア進出によって存在感が弱まり、日本に統一政権が成立すると、その尖兵である薩摩の侵攻を受けて支配下に入った、という受動的なトーンで語られがちであった。しかし、昨今の研究では、この時代を作った琉球王国は、諸外国との複雑かつ柔軟な外交交渉を通して巧みな交易活動を積極的に展開したことがわかっている。東南アジア諸国とは対等な関係を作り上げ、南九州の諸勢力に対しては時には弱みに付け込んで優位な関係を築きもしている(村井章介『日本中世史 分裂から天下統一へ』2016年)。そして何より、琉球とは異なった文化をもつ奄美諸島や、宮古、八重山、さらに与那国といった先島諸島に侵攻し、中央集権的な体制で支配したのである。

本研究では、琉球の周辺地域から古琉球史を見つめ直すことで琉球の帝國的側面を抉り出し、琉球王国を相対化する。そのうえで、中世東アジア海域社会の特質を分析するための新たな視点を準備する。

2. 研究の目的

文献資料に残らないためこれまでほとんど注目されてこなかったが、宮古、八重山といった先島諸島には多くの中世村落遺跡が存在する。これには、廃村として地上に痕跡を残した集落遺跡と、地上に残らなかった集落遺跡の2タイプがある(小野正敏「先島の集落」2010年、村木二郎「八重山・宮古の英雄時代と「琉球帝国」」2016年)。前者は、海岸に面した隆起珊瑚礁の崖上に立地し、2～3メートルの高い石垣を巡らして防御し、さらに内部にも石垣で区画された多数の不整形な屋敷群が集合している。後者には、現在の集落が重なって新しく作られた聖地である御嶽があるが、陶磁器や土器が落ちており、そこには15世紀以前の村落が存在したことがわかる。古くからの聖なる井戸、村落開創者の屋敷やその古墓があったと伝えられ、かつて先祖の村があったという土地の記憶が、のちに新しい村ができた時にその地を祀る形で御嶽を作らせたのである。考古学と民俗学の手法から、「土地の記憶」の原点が中世の村にあることが明らかである。

これらの村の多くは14世紀頃に出現し、16世紀初頭には廃絶している。14～15世紀の先島地域は、村立て英雄の伝承にあらわれる領主間抗争の時期であり、さらには首里王府による侵攻を受けて版図に組み込まれた戦乱の時代である(文献資料では1500年、八重山・オヤケアカハチの乱。1522年、与那国島・鬼虎の乱。1524年、竹富島に首里王府の蔵元開庁)。これらの集落遺跡は、まさに東アジア海域の多様な生活文化と琉球帝国の動態を示す基礎的な資料となる。

そこで、先島・奄美といった琉球周辺地域の遺跡・遺物を分析することで集落の特徴を捉え、文献史学・民俗学などの他分野の研究者と情報を共有することで、古琉球史の新たな解釈を目指す。このことは日本列島の中世史を考えるうえでも新視点を与えることとなる。

3. 研究の方法

琉球王国は14世紀末に宮古、15世紀半ば以前に奄美、16世紀初頭に八重山へ版図を広げたとされる。しかしこれらは、近世になって首里王府が編纂した文献資料に基づく説明である。宮古島の中世集落遺跡から見つかる陶磁器からは、14世紀末ではなく15世紀半ばに画期が見いだされる(久貝弥嗣「宮古のグスク時代の展開に関する一考察」『南島考古』33、2014年)。考古学サイドからはこれまでの説に対する反論が出始めているのであり、征服された側からの歴史叙述は新たな歴史像を描く可能性を孕んでいる。同時代の文献資料がほとんどないこれらの地域の歴史を追うためには、考古学の成果は不可欠である。

そのため、沖縄周縁部の中世遺跡の調査、とくに集落遺跡の把握と測量調査を実施し、考古学的資料の増加を図る。また、近年注目されている福建省浦口窯、閩清窯産白磁(いわゆる今帰仁タイプ、ピロースクタイプ)や粗製陶磁器の分布は、宮古・八重山地域に顕著であり、明らかに沖縄島とは異なる交易ルートを確認していたことがわかる。文献資料からは窺えない東アジア海域における交易の動態を、宮古・八重山、奄美の集落遺跡から出土する陶磁器の組成を詳細に検討することで導くことができる。そのため、中国産陶磁器を遺跡・遺構ごとに同一視点で全点カウント・分類する。こうして蓄積した考古学的な基礎データを、文献史学や民俗学など他分野の研究者と共有し、新しい解釈を試みる。

4. 研究成果

(1) 陶磁器悉皆調査

文献資料の少ない先島や奄美の集落を考古学的に調査することで、従来の解釈に修正を迫る。そのため、遺物面では集落遺跡から出土した中国産陶磁器を悉皆的に分類・カウントすることで、基礎資料の充実を図った。調査を実施したのは以下の遺跡である。与那国島与那原遺跡・慶田崎遺跡、西表島上村遺跡、宮古島友利遺跡、那覇市銘苅原遺跡・ヒヤジョー毛遺跡、うるま市勝連城跡、与論島与論城跡。

これらの調査により、 期（11世紀後半から12世紀前半）には奄美から先島一帯に貿易陶磁器が流通したとされてきた解釈に対して、 期の先島での出土は極めて限定的でありこの地域の資料が一般化するの 期（13世紀後半から14世紀前半）であることが明確化した。また 期の貿易陶磁器は先島地域と沖縄島・奄美地域とは組成が異なり、先島地域は中国福建省から直接陶磁器を入手していたことが示せた。宮古島では a期（14世紀後半から15世紀初め）、奄美では b期（15世紀前半から中葉）、八重山では 期（15世紀後半から16世紀前半）に陶磁器の出土が途絶える集落遺跡が多く、この時期に琉球の侵攻を受けたと想定できる。詳細については、池谷初恵・小野正敏・岩元康成・小出麻友美・佐々木健策・村木二郎「中世琉球における貿易陶磁器調査」『国立歴史民俗博物館研究報告』226、2021年で報告した。

また、新型コロナ禍によって離島調査が困難になったため、比較対象資料を増やすために他地域の陶磁器調査もおこなった。実施したのは以下の遺跡である。益田市内中世遺跡・小城市内中世遺跡・福山市草戸千軒町遺跡。

これにより、白磁ピロースク や青磁碗 D1・D2 などの琉球における比率の高さが浮かび上がり、博多を經由しない貿易陶磁器の流通経路がより明確になった。成果の一部については村木二郎「陶磁器からみた中世益田」『中世武家領主の世界』勉誠出版、2021年で報告したほか、国立歴史民俗博物館企画展示『中世武士団 - 地域に生きた武家の領主 - 』で公開した。

(2) 集落遺跡の調査

文献資料の少ない先島や奄美の集落を考古学的に調査することで、従来の解釈に修正を迫るため、遺跡面では先島に残る石積みをもった集落遺跡を丹念に踏査した。調査を実施したのは以下の島々の遺跡である。波照間島・西表島・竹富島・石垣島・多良間島・宮古島。

なかでも、波照間島ミシュク村跡遺跡については平板測量調査をおこなって遺跡全体の測量図を作成し、佐々木健策・小出麻友美・池谷初恵・小野正敏・村木二郎「沖縄県竹富町波照間島ミシュク村跡遺跡の調査」『国立歴史民俗博物館研究報告』226、2021年で報告した。また、宮古島上比屋山遺跡についても踏査を丹念におこない、既存の測量図に修正をかけた。

これらの調査により、先島地域の石積みをもった集落遺跡がこの地域特有のものであり、(1)の陶磁器調査の成果と合わせることで13世紀後半に出現し15世紀代に廃絶することが明らかとなった。先島地域がもともとは沖縄島とは異なる文化圏であったことを、とくに細胞状集落遺跡と呼ぶ大規模な集落遺跡は明確に示すものである。詳細については村木二郎「先島の集落遺跡からみた琉球の帝國的様相」『国立歴史民俗博物館研究報告』226、2021年で論じている。

(3) 特集展示「海の帝国琉球 - 八重山・宮古・奄美からみた中世 - 」の開催

(1)(2)の調査により基礎データを蓄積しつつ文献史学・民俗学など他分野の研究者と研究を重ね、その成果の一端を国立歴史民俗博物館特集展示「海の帝国琉球 - 八重山・宮古・奄美からみた中世 - 」を開催することで広く一般に公開した。展示内容は、 描かれた琉球、 八重山・宮古の時代、 境界領域としての奄美、 琉球統一と中央集権、 那覇港と島々を結ぶ、 中国と日本のはざままで、の6章からなる。展示図録では18本のコラムも掲載し、研究分担者等の成果を収録した。

また展示に際してはギャラリー討論「描かれた琉球」「八重山・宮古の時代」「境界領域としての奄美」「琉球統一と中央集権」「那覇港と島々を結ぶ」「中国と日本のはざままで」を実施し、動画を配信している。

(4) シンポジウムの開催

研究を重ねる過程でシンポジウムを開催し、広く成果を公開した。

シンポジウム「遺跡から見た琉球列島のグスク時代」(2021年、沖縄県立博物館・美術館)。報告：村木二郎「島々からみた「琉球帝国」」、池田榮史「奄美における「グスク時代」」、久貝弥嗣「宮古地方におけるグスク時代の展開」、小野正敏「八重山のグスク時代 - 集落遺跡からの視点 - 」、および討論。

シンポジウム「宮古島と琉球帝国」(2022年、宮古島 JA 宮古)。報告：村木二郎「琉球帝国と宮古島の中世」、佐々木健策「宮古島の中世遺跡と陶磁器調査」、久貝弥嗣「宮古諸島におけるグスク時代の展開」、島津美子「金頭銀荳簪」の材質分析、小野正敏「集落遺跡が語る八重山の歴史」、および討論。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計48件（うち査読付論文 14件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 村木二郎	4. 巻 226
2. 論文標題 先島の集落遺跡からみた琉球の帝國的様相	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 113-142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 佐々木健策・小出麻友美・池谷初恵・小野正敏・村木二郎	4. 巻 226
2. 論文標題 沖縄県竹富町波照間島ミシュク村跡遺跡の調査	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 13-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池谷初恵・小野正敏・岩元康成・小出麻友美・佐々木健策・村木二郎	4. 巻 226
2. 論文標題 中世琉球における貿易陶磁調査	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 43-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村木二郎	4. 巻 92
2. 論文標題 琉球帝国と八重山・宮古の中世	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 しまたてい	6. 最初と最後の頁 47-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村木二郎	4. 巻 1
2. 論文標題 中世考古学の方法	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 増補改訂新版 日本中世史入門	6. 最初と最後の頁 555-573
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村木二郎	4. 巻 2
2. 論文標題 碧い海に引かれた国境線 - 大航海時代と琉球帝国 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 REKI HAKU	6. 最初と最後の頁 44-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒木和憲	4. 巻 226
2. 論文標題 古琉球期王権論 - 支配理念と「周縁」諸島 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 251-288
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 荒木和憲	4. 巻 223
2. 論文標題 中世日朝通交貿易における船と航海	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 339-386
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 荒木和憲	4. 巻 224
2. 論文標題 中世日本往復外交文書をめぐる様式論的検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 213-265
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 荒木和憲	4. 巻 1
2. 論文標題 中世日本境界領域論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 増補改訂新版 日本中世史入門	6. 最初と最後の頁 488-506
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒木和憲	4. 巻 2
2. 論文標題 中世の「日本」はどんなカタチをしていたのか?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 REKI HAKU	6. 最初と最後の頁 37-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒木和憲	4. 巻 129-5
2. 論文標題 対外関係 (回顧と展望 日本 (中世))	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁 90-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒木和憲	4. 巻 20
2. 論文標題 14世紀の「唐船」と京都の感染症	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Kokushi Email Newsletter	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中大喜	4. 巻 223
2. 論文標題 中世石見国高津川・益田川河口域港湾の基礎的研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 207-223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中大喜	4. 巻 226
2. 論文標題 薩摩千竈氏再考	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 289-305
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤努	4. 巻 17
2. 論文標題 喜界町手久津久地区川尻遺跡出土青銅製鋤先の鉛同位体比分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書	6. 最初と最後の頁 155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤努	4. 巻 16
2. 論文標題 貨幣の「色付」技術の進化、青銅製品の原料のルーツを知りたい	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 J-PARC季刊誌	6. 最初と最後の頁 4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木康之	4. 巻 226
2. 論文標題 草戸千軒町遺跡におけるピロースクタイプ白磁碗の出土状況	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 231-236
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒嶋敏・安里進	4. 巻 22
2. 論文標題 「寛永の琉球国絵図」について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 首里城研究	6. 最初と最後の頁 42-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒嶋敏	4. 巻 90
2. 論文標題 「首里城並諸方絵図間付差図帳」について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信	6. 最初と最後の頁 25-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺美季	4. 巻 69
2. 論文標題 琉球・日本関係における冠服と詔勅	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東国史学	6. 最初と最後の頁 55-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.22912/dgsh.2020.69.55	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 渡辺美季	4. 巻 223
2. 論文標題 『琉球国図』の薩琉航路	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 75-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡辺美季	4. 巻 44
2. 論文標題 史料紹介 咸豊三 (一八五三) 年『産物御用掛方日記』(評定所文書一五〇六号)写本 - 解題および翻刻 (上) -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 沖縄史料編集紀要	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 関周一	4. 巻 40
2. 論文標題 中世南九州の対外交流	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 貿易陶磁研究	6. 最初と最後の頁 3-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関周一	4. 巻 226
2. 論文標題 『朝鮮王朝実録』にみえる奄美諸島と先島	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 197-230
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村木二郎	4. 巻 937
2. 論文標題 グスクと琉球の戦国時代	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 學士會会報	6. 最初と最後の頁 107 115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村木二郎	4. 巻 150
2. 論文標題 古代・中世：考古学からみた画期	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 季刊考古学	6. 最初と最後の頁 55-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村木二郎	4. 巻 3
2. 論文標題 陶磁器からみた中世益田 港	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中世益田現地調査成果概報	6. 最初と最後の頁 21-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村木二郎	4. 巻 1
2. 論文標題 島々からみた「琉球帝国」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 遺跡から見た琉球列島のグスク時代 資料集	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田榮史	4. 巻 735
2. 論文標題 総論 日本水中考古学の未来に向けて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊考古学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 3-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田榮史	4. 巻 2
2. 論文標題 琉球列島史を掘り起こす 11～14世紀の移住・交易と社会変容	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中世学研究	6. 最初と最後の頁 13-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田榮史	4. 巻 10
2. 論文標題 鷹島2号沈没船の調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 松浦市文化財調査報告書	6. 最初と最後の頁 133-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田榮史	4. 巻 1
2. 論文標題 奄美における「グスク時代」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 遺跡から見た琉球列島のグスク時代 資料集	6. 最初と最後の頁 11-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒木和憲	4. 巻 1
2. 論文標題 中世日本の往復外交文書	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 古文書の様式と国際比較	6. 最初と最後の頁 302-327
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中大喜	4. 巻 1
2. 論文標題 将軍の文書と武士団の文書	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 古文書の様式と国際比較	6. 最初と最後の頁 64-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中大喜	4. 巻 1
2. 論文標題 南北朝期日本の不改年号と私年号	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 年号と東アジア 改元思想と文化	6. 最初と最後の頁 305-322
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関周一	4. 巻 1
2. 論文標題 倭寇と朝鮮	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 九州の中世	6. 最初と最後の頁 18-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒嶋敏	4. 巻 2
2. 論文標題 第一尚氏期における首里の外港を探る	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中世学研究	6. 最初と最後の頁 69-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺美季	4. 巻 12
2. 論文標題 琉日関係における明清詔勅	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第十二回琉球・中国交渉史に関するシンポジウム論文集	6. 最初と最後の頁 55-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村木二郎	4. 巻 2018
2. 論文標題 中世の鉄鍋に関する諸問題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鑄造遺跡研究資料	6. 最初と最後の頁 56-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田榮史	4. 巻 70
2. 論文標題 琉球列島における暴力的闘争に関する考古学研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 生物科学	6. 最初と最後の頁 159-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田榮史	4. 巻 8
2. 論文標題 グスク時代建物遺構に関する予察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地理歴史人類学論集	6. 最初と最後の頁 73-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田榮史	4. 巻 140
2. 論文標題 水中考古学をめぐる旅	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 本郷	6. 最初と最後の頁 29-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺美季	4. 巻 20
2. 論文標題 隠蔽政策の展開と琉清日関係	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 琉大史学	6. 最初と最後の頁 51-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中大喜	4. 巻 217
2. 論文標題 中世在地領主による「平和」の創成・維持と地域社会	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人民の歴史学	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中大喜	4. 巻 934
2. 論文標題 平泉 北方に築かれた武士の都	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 學士會会報	6. 最初と最後の頁 94-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木康之	4. 巻 10
2. 論文標題 草戸千軒町遺跡出土資料にみる鎌倉時代の「会所」と「唐物」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 家具道具室内史	6. 最初と最後の頁 22-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木康之	4. 巻 50
2. 論文標題 備後南部地域を中心とする広島県域の中世土器に関する覚書	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 芸備	6. 最初と最後の頁 126-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計30件（うち招待講演 21件 / うち国際学会 9件）

1. 発表者名 荒木和憲
2. 発表標題 航海からみた中世日朝交流
3. 学会等名 九州大学韓国研究センター第95回定例研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田睦彦
2. 発表標題 石丁場 - 技術の進歩と景観の変化
3. 学会等名 第24回常民文化研究講座（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松田睦彦
2. 発表標題 民俗学から見た石丁場遺跡の魅力
3. 学会等名 第5回江戸城石垣石丁場跡セミナー（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 齋藤努
2. 発表標題 負ミューオンによる文化財の完全非破壊調査 - 内部分析と深さ方向分析 -
3. 学会等名 2020年度量子ビームサイエンスフェスタ（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村木二郎
2. 発表標題 琉球帝国と先島
3. 学会等名 歴博友の会「考古学講座」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村木二郎
2. 発表標題 島々からみた「琉球帝国」
3. 学会等名 遺跡から見た琉球列島のグスク時代
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 荒木和憲
2. 発表標題 進貢船の意匠と航海信仰
3. 学会等名 『琉球船と首里・那覇を描いた絵画史料』出版記念シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中大喜
2. 発表標題 中世武家の置文と譲状
3. 学会等名 鎌倉遺文研究会第251回例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木康之
2. 発表標題 河口の港が果たした役割 日本海と瀬戸内海
3. 学会等名 第112回歴博フォーラム「中世益田の世界」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 関周一
2. 発表標題 文献からみた南九州の対外交流
3. 学会等名 第40回日本貿易陶磁研究会研究集会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 関周一
2. 発表標題 14世紀 倭寇の韓半島 略奪
3. 学会等名 2019年韓日文化交流基金国際学術会議(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池田榮史
2. 発表標題 奄美における「グスク時代」
3. 学会等名 遺跡から見た琉球列島のグスク時代
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 池田榮史
2. 発表標題 韓半島と琉球列島の交流・交易について
3. 学会等名 2019大伽耶海洋交流史再照明事業国際学術大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黒嶋敏
2. 発表標題 アジアのなかの島津義久・義弘
3. 学会等名 鹿児島県歴史資料センター黎明館講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黒嶋敏
2. 発表標題 「寛永の琉球国絵図」について
3. 学会等名 首里城研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 村木二郎
2. 発表標題 中世の鉄鍋に関する諸問題
3. 学会等名 鑄造遺跡研究会2018（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 荒木和憲
2. 発表標題 16世紀後半～17世紀前半の東アジア海域と博多・対馬・朝鮮
3. 学会等名 越境する東アジア（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 荒木和憲
2. 発表標題 「壬申戦争」の講和交渉
3. 学会等名 第3回日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 荒木和憲
2. 発表標題 和解のための努力と結実 - 己酉約条の締結・施行過程を中心として -
3. 学会等名 2018年韓日国際学術会議「壬申倭乱から朝鮮通信使の道へ - 戦争の傷処と治癒、そして和解 -」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡辺美季
2. 発表標題 日明「勘合」交渉中の琉球與台湾
3. 学会等名 2018台日明清研究交流合宿研習營（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡辺美季
2. 発表標題 在琉日關係中的明清時期詔勅文書
3. 学会等名 第12回琉球・中国交渉史に関するシンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 WATANABE Miki
2. 発表標題 The Oldest Map Becomes the Newest:Takemori Doetsu's 1696 Map of the Ryukyu Kingdom
3. 学会等名 The Seventh International Symposium of Inter-Asia Research Networks, "Old Maps in Asia:Basic Information and Perspective for New Research"（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黒嶋敏
2. 発表標題 第一尚氏期首里の外港を探る - 画像史料の再検討から
3. 学会等名 第2回中世学研究会シンポジウム「琉球の中世」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黒嶋敏
2. 発表標題 大航海時代の村上海賊と琉球・アジア
3. 学会等名 日本遺産パートナー養成講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黒嶋敏
2. 発表標題 琉球王国と薩摩島津氏 - 天下統一の時期を中心に -
3. 学会等名 法政大学沖縄文化研究所総合講座「沖縄を考える」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 KUROSHIMA Satoru
2. 発表標題 Awareness of Borders in Medieval Japan
3. 学会等名 Tagung "Core, Periphery, Frontier - Spatial Patterns of Power" (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田榮史
2. 発表標題 11～13世紀の琉球列島
3. 学会等名 第2回中世学研究会シンポジウム「琉球の中世」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中大喜
2. 発表標題 中世在地領主による「平和」の創成・維持と地域社会
3. 学会等名 東京歴史科学研究会第52回大会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中大喜
2. 発表標題 中世文書から日本を読む
3. 学会等名 2018年度学習院大学史学会例会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木康之
2. 発表標題 草戸千軒町遺跡出土資料にみる鎌倉時代の「会所」と「唐物」
3. 学会等名 家具道具室内史学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計25件

1. 著者名 村木二郎編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 国立歴史民俗博物館	5. 総ページ数 305
3. 書名 国立歴史民俗博物館研究報告226・中世東アジア海域における琉球の動態に関する総合的研究	

1. 著者名 村木二郎編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 国立歴史民俗博物館	5. 総ページ数 122
3. 書名 海の帝国琉球 - 八重山・宮古・奄美からみた中世 -	

1. 著者名 荒木和憲編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 国立歴史民俗博物館	5. 総ページ数 406
3. 書名 国立歴史民俗博物館研究報告223・中世日本の国際交流における海上交通に関する研究	

1. 著者名 秋山哲雄・田中大喜・野口華世編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 590
3. 書名 増補改訂新版 日本中世史入門	

1. 著者名 松田睦彦編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 国立歴史民俗博物館	5. 総ページ数 141
3. 書名 国立歴史民俗博物館研究報告221・海の生産と信仰・儀礼をめぐる文化体系の日韓比較文化研究	

1. 著者名 小島道裕、田中大喜、荒木和憲、国立歴史民俗博物館	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 432
3. 書名 古文書の様式と国際比較	

1. 著者名 水上雅晴、高田宗平、田中大喜	4. 発行年 2019年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 792
3. 書名 年号と東アジア	

1. 著者名 田中大喜、渡邊浩貴、村木二郎	4. 発行年 2020年
2. 出版社 国立歴史民俗博物館	5. 総ページ数 30
3. 書名 中世益田現地調査成果概報	

1. 著者名 大庭康時、佐伯弘次、坪根伸也、関周一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 高志書院	5. 総ページ数 180
3. 書名 島嶼と海の世界	

1. 著者名 中村 浩、池田 榮史、木下 亘	4. 発行年 2019年
2. 出版社 芙蓉書房出版	5. 総ページ数 200
3. 書名 ぶらりあるき釜山・慶州の博物館	

1. 著者名 池田 榮史	4. 発行年 2019年
2. 出版社 新泉社	5. 総ページ数 96
3. 書名 沖縄戦の発掘 沖縄陸軍病院南風原壕群	

1. 著者名 池田榮文、瀬戸哲也、黒嶋 敏、木村淳	4. 発行年 2019年
2. 出版社 高志書院	5. 総ページ数 190
3. 書名 琉球の中世	

1. 著者名 黒嶋 敏	4. 発行年 2019年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 296
3. 書名 戦国合戦 大敗 の歴史学	

1. 著者名 渡辺美季ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料研究センター	5. 総ページ数 230
3. 書名 日本近世生活絵引 琉球人行列と江戸編	

1. 著者名 村木二郎・鈴木康之・齋藤努・池谷初恵・小野正敏・佐々木健策	4. 発行年 2019年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 164
3. 書名 中世のモノづくり	

1. 著者名 池田榮史	4. 発行年 2018年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 254
3. 書名 海底に眠る蒙古襲来	

1. 著者名 荒木和憲ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 344
3. 書名 戦国大名大友氏の館と権力	

1. 著者名 荒木和憲ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 景仁文化社	5. 総ページ数 372
3. 書名 壬申倭乱から朝鮮通信使の道へ	

1. 著者名 荒木和憲ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 175
3. 書名 琉球船と首里・那覇を描いた絵画史料研究	

1. 著者名 田中大喜・荒木和憲ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 国立歴史民俗博物館	5. 総ページ数 313
3. 書名 日本の中世文書	

1. 著者名 田中大喜・村木二郎・荒木和憲ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 81
3. 書名 わくわく！探検 れきはく日本の歴史2 中世	

1. 著者名 齋藤努・村木二郎ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 193
3. 書名 ここが変わる！日本の考古学	

1. 著者名 田中大喜・村木二郎・松田睦彦ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 国立歴史民俗博物館	5. 総ページ数 26
3. 書名 中世益田現地調査成果概報	

1. 著者名 村木二郎・池田榮史・小出麻友美・佐々木健策ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 国立歴史民俗博物館	5. 総ページ数 24
3. 書名 歴博211 中世の聖地	

1. 著者名 荒木和憲・李明玉・村木二郎ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 国立歴史民俗博物館	5. 総ページ数 24
3. 書名 歴博214 濟州島をめぐる東アジアの海上交通	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鈴木 康之 (Suzuki Yasuyuki) (10733272)	県立広島大学・地域創生学部・教授 (25406)	
研究分担者	関 周一 (Seki Syuichi) (30725940)	宮崎大学・教育学部・教授 (17601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	池田 栄史 (Ikeda Yoshifumi) (40150627)	國學院大學・研究開発推進機構・教授 (32614)	
研究分担者	松田 睦彦 (Matsuda Mutsuhiko) (40554415)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・准教授 (62501)	
研究分担者	齋藤 努 (Saito Tsutomu) (50205663)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・教授 (62501)	
研究分担者	中島 圭一 (Nakajima Keiichi) (50251476)	慶應義塾大学・文学部（三田）・教授 (32612)	
研究分担者	荒木 和憲 (Araki Kazunori) (50516276)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・准教授 (62501)	
研究分担者	渡辺 美季 (Watanabe Miki) (60548642)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授 (12601)	
研究分担者	田中 大喜 (Tanaka Hiroki) (70740637)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・准教授 (62501)	
研究分担者	黒嶋 敏 (Kuroshima Satoru) (90323659)	東京大学・史料編纂所・准教授 (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	小出 麻友美 (Koide Mayumi) (30828794)	千葉県立中央博物館・その他部局等・研究員（移行） (82503)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関